

かるがも



第28号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>



病院長 伊達裕昭

日常に潜む危機



今年の桜は例年に比べ心なし色薄く、短い期間で散っていったような気がします。東日本を襲った3月の大震災の被災状況が、そう思わせるのでしょうか。時間が経てば経つほど被害の詳細が明らかになり、改めて今回の震災が未曾有の大災害であったことが判りました。当院からも陸前高田市の臨時診療所に職員を派遣したほか、宮城県立こども病院への医療物資輸送、義捐金募集などの活動を行いました。今後も長期化する被災地への継続的な支援が必要な様子です。派生した原発被害の一刻も早い沈静化も期待されます。被災された方々には心からお見舞い申し上げるとともに、多くの被災地域が一日も早く復興することを祈って止みません。

この地震で、エレベーターの停止や一部のスプリンクラーからの水漏れなど、当院にも建物の被害は多少ありましたが最小限で済みました。しかしその後の計画停電で、安定した電力供給が保証されない状態での手術や一部の検査をすべてキャンセルせざるを得なかったことから、すでに入院されていた患者さんを始め、外来・入院の予約をされていた皆様に一時的に多大なご迷惑をおかけいたしました。紙面を借りてお詫び申し上げます。

来院されている方は既にお気づきのように、昨年暮れから病院の第2駐車場部分を閉鎖して、産科部門を加えた新しい周産期棟の建設が始まっています。基礎工事を終了する5月以降は、病院の既存部分への工事も開始されることから、交通や予期せぬ騒音で来院される皆様にご迷惑、ご不便をおかけすることもあるかと思っております。安全に配慮



し、既存の病院機能を損なわない工事進行を心がけていますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

今年度はこの新周産期棟の開棟に合わせて病院機能の充実を図るため、助産師を中心とした看護師や医師、また新たな職種として遺伝相談員などの職員を増員しました。その一方で、年度の変わり目に当たりこれまで長く慣れ親しんでいただいた職員の異動もあつたと思いますが、新職員を含め病院全体で診療や業務に滞りや支障を生じることが無いよう努めますので、ご安心下さい。

今回の大震災を通して、「日常に潜む危機と安全への備え」について改めて考えさせられました。三陸地方では過去の津波の経験から、防災意識も高く日頃の訓練や準備も怠り無かつたのに、それでも対応しきれずに大きな被害が発生しました。福島原子力発電所も、一般の公共施設に比べれば遙かに防災への備えは十分に検討されて建設されたにもかかわらず、大きな原子力災害に至りました。いずれも「想定外の」規模の地震・津波に対して、準備や対策が抗しきれなかつた結果です。この結果だけを見て「想定が甘かつたのでは？」とその責任を問うことは簡単です。しかし、この大きな天災の前では誰もが無力な被害者であり、私達は常に一定の危険と隣り合わせに毎日を過ごしていることをもっと自覚する必要があるのではないかと感じました。かつて「日本人とユダヤ人」という著書の中で、イザヤ・ベンダサン（山本七平）は『安全と水が無料だと思っているのは日本人だけ』と指摘しました。それから40年経ち、水はお金を出してでも買う時代になりましたが、相変わらず私達の安全は誰かが保証してくれるもので、それが脅かされた時は責任を追及するという姿勢は変わらないようです。100%の安全はあくまで到達すべき目標であり、どんなに周到に準備してもそれを超える危機は必ず発生します。重要なことはその責任の追及ではなく、不幸な経験を生かし100%の安全に向けてさらに一歩前進することにこそあるのではないかと思います。



5月のこどもの日を前にして、産経新聞社千葉総局から大きな鯉のぼりの寄贈を受けました。晴れ渡る青空を背景に、新緑の中を風に泳ぐ雄大な鯉のぼりを見ながら、日本全体の復興に向けて未来ある子ども達が元気にたくましく成長してくれることを心から祈っています。

“ギネス世界記録 鶴生田川のこいのぼり 5,000匹（館林）”

平成23年5月1日